

在宅連携センターつむぎは、高齢者を支える医療・介護・福祉関係者の相談窓口として、2016年度に開設しました。「つむぎ通信」は2019年度から在宅連携センターつむぎの周知と情報発信のため発行しています。バックナンバーはホームページからご覧ください。→



地域包括ケア病棟を活用してみませんか？

つむぎでは、医療と介護の包括的かつ継続的な連携を推進しています。今回注目するのは「地域包括ケア病棟」です。この病棟は、急性期の治療が落ち着き、在宅復帰を目指すことを目的としています。医療依存度が高く、介護系施設のショートステイで受け入れを断られた方も相談が可能です。

★入院対象となる人★

- ・急性期治療は終わったが、しばらく経過観察が必要な人
- ・在宅療養復帰・社会復帰のため、リハビリテーションや療養準備が必要な人
- ・レスパイト（介護をする人の事情で短期的に入院すること）が必要な人



★特徴と利用のポイント★

- ・回復期リハビリ病棟とは異なり、病名に関係なく入院してリハビリができる
- ・在宅復帰を目指すことが目的のため、退院時は原則、自宅退院か介護系施設入所
- ・入院期間は通算60日が上限

市内には該当病院が7か所あり、つむぎでは定期的に地域包括ケア病棟意見交換会に参加して、各病院と情報交換をしています。利用方法に迷ったり「直接病院に問い合わせをする前にちょっと聞いてみたいな。」など、気軽につむぎにご相談ください。



センター長 岩瀬敏樹（医師）

●趣味

犬との散歩

●行きたい国

以前留学していたスウェーデン

●お勧めパワースポット

佐鳴湖南西岸の富士見橋 →
浜松医療センターと富士山が同時に見える

●コロナが収束したらやりたいこと

海外学会（特にヨーロッパ）への現地参加

●最後の晚餐、何食べる？

赤だし（八丁味噌）のなめこ汁とご飯

メンバー紹介



私の医師（整形外科医）としての主な仕事は、股関節の病気で苦しんでいる患者さんが健康な日常生活を取り戻せるように手術治療をすることです。

直接の治療対象は関節の病気ですが、治療の真の目的は患者さんが快適な社会生活を取り戻すことですので、実際の診療活動では治療前後の職場や居住環境、時には介護環境なども把握・調整する必要があります。

そのような経験から病院などで受ける医療・在宅医療・介護等を繋ぐ“つむぎ”の活動を見守っています。



相談事例Q&A～相談内容を紹介します～



Q. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の方が気管切開を希望したが、本人、主治医、家族の医療処置に対する意見が異なっている。対応に苦慮しています。（ケアマネジャー）

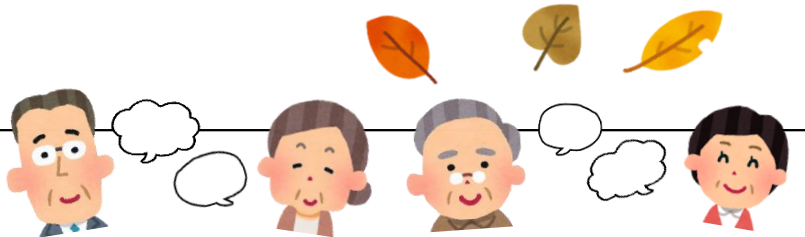
⇒人生の最終段階における医療やケアについて、家族、医療者、支援者を含め話し合うACP。症状が進行すると「本人の意思が確認できない」「本人の希望する医療処置が行われない」「希望しない医療処置が行われる」などの可能性があるを伝え、早めに話し合いの場を持つことを勧めた。

Q. 精神疾患のために入院、状態が改善し退院可能。本人は自宅へ帰りたいが、家族は入所施設を探している。相談者は自宅で生活できる力があると思うが、家族は無理だと思っている。本人と家族の希望が違うので対応に困っています。（病院相談員）

⇒本人の持てる力や家族の介護力を確認するとともに、本人が家族に自宅退院の希望を言えないことを家族に理解してもらい、カンファレンスで本人にとって何がよいかを再検討することを提案した。

Q. 医療処置の多い方（インスリン注射4回/日）のショートステイを探している。介護系施設数か所から断られた。受け入れ先はないでしょうか？（ケアマネジャー）

⇒レスパイト目的でも利用可能な地域包括ケア病棟の情報提供を行った。病状は安定しているが、医療処置が必要な方の受け入れが相談できる。



11月30日は「人生会議の日」

あなたは、自分の死を考え、誰かと話をしたことはありますか？日本人は死について語ることを「縁起でもない」と敬遠しがちですが、生きているものにとって死は避けられないものです。人間の死亡率は100%、お迎えが来るまで、自分らしく生きるために、最期までどのように生きるかを考えておきたいものです。

人生の最終段階に受ける医療やケアの希望について、前もってご家族や親しい人と繰り返しお話することを「アドバンス・ケア・プランニング」（略称ACP）、愛称は「人生会議」といいます。11月30日は「人生会議の日」です。

それは自分だけのためではなく、残された大切な人のためにも必要なことです。認知症や急な意識障害を伴う病気、事故のため、70%の人が自分の最期の希望を意思表示できなくなると言われています。延命処置をどうするか、家族が決断を迫られた時、「自然に逝きたい」「できることはすべてやってほしい」等、本人の希望を聞いたことがあれば、決定の助けになるのです。

浜松市は、市民の皆様が「もしもの時のこと」を考え、親しい方と語っていただくことを期待し、『人生会議手帳』を作成しました。今年度は『人生会議手帳』の改訂について検討しています。他にも市民向け講演会、支援者向け研修会開催に取り組んでおり、つむぎも協力しています。

皆様にも『人生会議手帳』を手にとっていただき、ご自分の「もしもの時のこと」について考え、大切な方と「人生会議」をしてみませんか？

